



朝の飛出し前の様子



夜明け前のスワンパーク

1. ハクチョウ類飛来状況（2011年～2015年）

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	88	47	12	15	45	41
コハクチョウ	1,743	2,522	552	970	1,905	1,538
類合計		3,007	733	985	1,950	1,335

2. 選定地の状況

環境省が毎年発表する『ガンカモ生息調査』でもほぼ毎年白鳥の生息数が全国でトップクラスの越冬場所です。白鳥への給餌が注視されてから若干の減少傾向は見られるが、数千羽の飛来は圧巻です。ただこの通称『最上川スワンパーク』と呼ばれ、白鳥の休息越冬場所であった中州が、樹木が繁茂して休息場所として少し不都合なためかこの場所への飛来数は毎年減ってきている。その減少した分の白鳥は、スワンパークより上流 1,000 ㍍位の場所に樹木のない中州が川の流れの関係でできたためにそちらの方への飛来数が極端に多くなってきている。

この場所は、日本海からの北西の季節風が直接吹き付ける場所であるために、厳冬期には、それに上流や凍結しない河川への避難行動が見られるようになってきている。そのために厳冬期にはスワンパークをねぐらとする白鳥の数はほぼ半減することもある。

（選定協力員 角田 分）

下池・上池 (6054・6055) ・ ・ 鶴岡市

38・45・20N 139・45・39E



下池



上池

1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	30	31	26	19	23	26
コハクチョウ	1,235	2,670	915	935	1,075	1,366
類合計	1,265	2,701	941	954	1,098	1,392

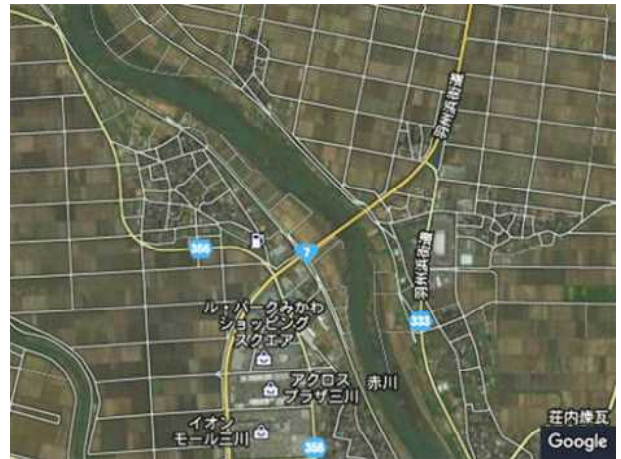
2. 選定地の状況

下池・上池というように、この場所は隣接する2つの池のことです。地図でも分かるように高館山の麓にあるため池として江戸時代に造られた池です。2つの池ともに池の北西側に山があるために、北西の季節風から身を守るのには絶好の場所で、山から流れ出る小川は冬でもこの池に流れ込んでいるためにその場所は凍り付かずに水面が露出している。その場所は白鳥たちの越冬場所(ねぐら)として使われている。池の形も流れ出る川をせき止めたただけのために、谷が入れ込む形となっている(地図参照)。そのために、それぞれの谷が水鳥たちの格好なねぐらともなっている。カモ類も多いためにオジロワシやオオワシなどの猛禽類が毎年見られる場所でもあります。

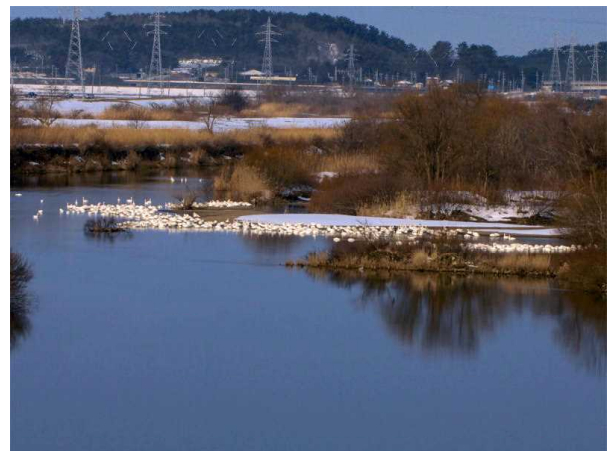
(選定協力員 角田分)

・赤川－興屋地点（6105）・酒田市

38・49・37N 139・50・22E



ねぐら流域全体写真



目覚めた集団

1. ハクチョウ類飛来状況（20011年～2015年）

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ						
コハクチョウ	3	583	2	329	610	305
類合計	3	583	2	329	610	305

2. 選定地の状況

この場所は、越冬時に寒さが厳しくなると最上川河口等が凍結するために避難してきた白鳥たちのねぐらです。現当時のねぐらとして白鳥が集結して使用している。吹雪や降雪時には、日中でもほとんど1日中この場所に留まっている。少し寒さが和らぐとお昼近くになってからこのねぐらから飛び出して周辺の水田で採食をしている。

このような二次的なねぐらとしてこの場所を使用するようになってきたのは、ここ10年程度の動きです。

